

平成 30 (2018) 年度 シラバス 美術Ⅱ

教科 (科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術 (美術Ⅱ)	2	2	高校美術 2 (日本文教出版)	なし

芸術科

美術Ⅱ

1. 学習目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2. 授業の進め方や学習方法

毎單元ごとに、目標やねらい、取り組み方法等の説明をします。与えられた課題を、自己の表現で試行錯誤しながら、計画的に取り組んでいきます。美術Ⅰの学習で身に付けた創造的な表現と鑑賞の力をさらに伸ばすことを目標にしています。学習活動の成果は作品や課題レポートに表れますが、結果だけ重視するのではなく、表現や鑑賞の過程での振り返りを大切にし、自分なりの思いや考えをもって活動に臨んでください。わからないことや悩んでいること等は机間巡視の際に質問してください。問題解決のためのアドバイスをします。もちろん、提出期限にはしっかり守り仕上げましょう。

3. 評価 (定期考査 : 25% 作品 60% 提出物・授業態度・発表等 15%)

(下記の4つの観点から評価した1・2・3学期の成績を統合し、年間の学習成績とします。)

① 関心・意欲・態度	美術表現・鑑賞に関心を持っているか。表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。
② 表現の工夫	表現のために材料の選択や技法の用い方を工夫しているか。自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。
② 表現の技能	作品を造りだすために必要な材料の扱い方や、表現方法を身に付けているか。
③ 鑑賞の能力	美術作品を感受し、理解しようとしているか。美術作品について、特徴や自分の考えを述べることができるか。

評価方法・観点	①	②	③	④	
学習状況観察	◎	○	○	○	授業時に実施
活動記録表	◎	—	—	○	自己評価を含む
課題レポート	○	○		◎	ワークシートを含む
作品	○	◎	◎	—	表現題材の成果として

4. その他 (履修上の留意点等)

美術は、表現することから始まります。まず、表現意欲を持つことです。次に、造る喜びを味わい楽しむ。これらの態度を持つことが大切になります。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして、創造に関わることで発想力や情操を育んでいきましょう。

※作品制作等の活動が授業時に終わらない場合、可能な限り放課後も美術教室を利用できるようにします。納得のいくまで試行錯誤してください。

5. 授業計画（進度表）

学期	月	単 元	学 習 内 容	留 意 点 等
1 学期	4	オリエンテーション	・美術Ⅱの学習についてのあらし、自己紹介	・美術の授業の取り組みや約束を確認する。
	5 6	○絵画 絵具を知ろう	① 絵具の性質・表現について	表現材料としての絵具に関心を持ち、その成り立ちや性質、表現効果などについて意欲的に理解し自分の表現に生かす。
	7	○絵画 風景を描く（校内風景）	② 構図を決める。 ③ スケッチをする。 ④ 画材の効果的な選択 ⑤ 描き込み、重描く ⑥ 作品の相互の鑑賞	・視点の位置や遠近法、構図に十分工夫し、奥行きのある空間表現について学ぶ。 ・普段見過ごしているような場所にも思わぬ発見があることを理解させ、楽しく表現する意欲と態度を養う。
2 学期	9 10	○絵画（読書感想画） （夏季休暇課題提出）	・未完成の部分を完成させる	・読後の感想を絵で表現する。
	11	○彫刻	① イメージを表現する意味を考える。 ② 形の構想 ③ 素材よる成型 ④ 作品の相互鑑賞	・イメージを湧出させて主題を生成するとともに、量感や材質感などの造形要素の働きを理解し、立体造形の表現技能を高める。
	12	○私の好きな美術作品	① 鑑賞文作成 ② 対象作品の選定 ③ 作品に関する調べ学習 ④ 課題レポートの作成	・美術作品の鑑賞を通して作者の心情や意図、表現の工夫などを理解し、よさの美しさを味わいます。
3 学期	1	○陶芸 課題 1	① 陶芸について（材料と道具） ② ろくろを使って身近な器を作ろう	・陶土の種類、道具、成型方法、焼成方法等について学ぶ。 【荒練り】【菊練り】を練習し、マスターする。粘土の特徴を知り、ろくろ制作の技法で器を作る。窯と焼成の仕組みを学び、体験する。
	2		③ 土焼成 ④ 作品の相互鑑賞	
	3	○鑑賞 ・1年間の反省	・授業をふりかえる	・次年度への課題を考える。